

# 全国大会 參加報告

## ～2025-2026～

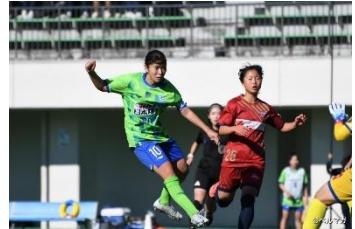


## JFA 第30回高円宮杯 U15女子サッカー選手権大会（1・2回戦） 参加報告書

兵庫県2級審判員 脇谷咲花

### - 目次 -

1. はじめに
2. 大会概要
3. 事前研修内容
4. 担当試合の振り返り
5. まとめ



### 1. はじめに

12月6日に開幕いたしました、JFA第30回高円宮杯U15女子サッカー選手権大会の参加を報告させていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのご指導、ご鞭撻を感謝申し上げるとともに、岐阜県サッカー協会の皆様、運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申しあげます。

### 2. 大会概要

日程：2025年12月6日（土）～12月7日（日） \* 1.2回戦

会場：磐田スポーツ交流の里ゆめりあ球技場（サッカー場）（静岡県磐田市）

磐田スポーツ交流の里ゆめりあ球技場（多目的G）（静岡県磐田市）

三重交通 G スポーツの杜鈴鹿 サッカー場・ラグビー場（三重県鈴鹿市）

上野運動公園競技場（三重県上野市）

新日本ガス球技メドウ（岐阜県岐阜市）

グリーン・フィールド中池（岐阜県関市）

J-GREEN 堺（大阪府堺市）

大会形式：各9地域協会から選出された32チームによるノックアウト方式

### 3. 事前研修内容

#### ●レフェリーのあるべき姿・存在

11月29日に行われたzoom事前研修会では、大会要項の確認やレフェリーのあるべき姿・存在について再確認を行いました。

～キーワード～

- ・最高の試合とは競技者同士・審判・競技規則がリスペクトされ審判がほとんど登場するとのない試合である。
- ・選手をサポートする役員の1人
- ・選手のために存在

- ・フィールドには「**3つのチーム**」が存在する  
2つのチームを**支える**のが3つ目のチームが「レフェリーチーム」  
→1番近くで選手をサポートするサッカー仲間

### 私たちのゴール

- ・レフェリーを通して人間性を高めること
- ・サッカーで人生を豊かにすること



### 4. 担当試合の振り返り

<1回戦>

**湘南ベルマーレ U15 ガールズ 5 – 0 FC STORY Tokushima メニーナ**

主審：脇谷咲花 副審：富永華氏、加藤誠氏 第4審：各務知加

5点差と点差が開くゲームとなり、試合展開もワンサイドよりのゲーム展開となりました。大きなトラブルや判定に迷うような出来事は少なかったです。全国大会という舞台であるため、試合前日にインストラクターの方々からは「全国大会だからこそ、選手はやれる」という前提に立ち、プレー強度を尊重しつつ、ファウルの基準を明確に示すことの重要性について助言を受けました。その助言を踏まえ、試合を通してその意識を持つことができ、ファウルの基準は安定していたと感じています。

一方で、展開の予測がうまく当てはまらない時間帯もあり、結果としてプレーが串刺しになる場面が見られました。特にポジショニングの面では、スペースを確保しようとする際に下がってしまう癖があり、縦に距離を取るのではなく、横にずれて十分な角度を作ることが今後の明確な課題となりました。

良かった点としては、姿勢や見栄えが良い点、1試合を通して走り切っていた点、またペナルティエリア付近を近い位置で見られていた点が挙げられ、今後もどんな試合においてもそれらを表現していきたいと思います。



右から2番目

< 2回戦 >

サンフレッチェ広島レジーナジュニアユース 2-0 高知学園高知中学

主審：小林彩乃氏 副審：脇谷咲花、河江亜依奈氏 第4審：加藤誠氏

副審として臨んだ本試合は、比較的一方的なゲーム展開であり、特に難しいジャッジもなく、全体として落ち着いて対応することができたと思います。事前にベンチコントロールが必要になるという予想があり、A1担当であったため、その点を強く意識して試合に入りました。試合中は監督と適切にコミュニケーションを取り、副審としてできる範囲のマネジメントを行うことで、主審をサポートすることができたと感じています。

また、サイドステップなど普段のトレーニングの成果を試合の中で発揮できた点も良かったと思います。

試合後の振り返りでは、インストラクターの方から「U15とは思えない濃い試合で、審判団が一丸となって運営できていた」と評価をいただき、この言葉から、個人だけでなく審判団として協力し合い、試合を支えられたことに手応えを感じることができました。

## 5. まとめ

全国大会の審判派遣を通して、改めて自分がサッカーに関わっていることの喜びと責任の大きさを実感しました。全国の舞台で試合に関わるという経験は決して当たり前ではなく、ここまで導いてくださった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆さまの支えがあってこそ実現したものです。日頃からのご指導や派遣に向けた準備、細やかなサポートに、心より感謝申し上げます。試合を通して、選手たちの真剣な姿勢や勝利に懸ける思いを間近で感じることができ、その空間に立ち会えたこと自体に大きなやりがいと喜びを感じました。

一つ一つの経験が、自分自身の成長につながっていることを実感するとともに、サッカーに関わり続けられている幸せを強く感じました。これから先、うまくいかないことやしんどい場面にあたることがあると思います。しかし、全国大会という貴重な経験で得た学びや自信を糧に、簡単には投げ出さず、サッカーと向き合い続けていきたいと考えています。支えてくださる方々への感謝を忘れず、これからも挑戦を重ねていきます。

最後になりましたが、今回派遣を承認して下さった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします



(村上伸次さんと)



(審判員たちと：一番右)